

小論文

(180 分)

2020 年 2 月 25 日

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は 14 ページあります。2 ページ目と 3 ページ目は白紙です。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合には、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙は 5 枚です。解答はすべて解答用紙の所定の場所に記入しなさい。
- 4 解答用紙とは別に、下書き用紙が 1 枚あります。必要に応じて自由に使用しなさい。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の所定の欄(2か所)に、必ず記入しなさい。
- 6 配付した解答用紙は、試験終了後に回収します。
- 7 試験終了後、問題冊子、下書き用紙は持ち帰りなさい。

第1問

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

30代の2年間、私はスリランカで「悪魔祓い」^{あくまばら}のフィールド調査を行っていました。「あ、スリランカって、遅れているんですね」というのは誤解です。

スリランカは、イギリスの植民地であったことから西洋医学もしっかり導入されていて大きな病院もいくつもあり、しかも公立の病院では医療費はタダ。みんな病気になったら病院へ行きます。しかし農村部には、村人たちが集まって徹夜で行われる悪魔祓いの儀式がまだ残っているのです。

人類史の中で私たちの祖先は、どんなときに人が「イキイキ」と創造的であり、どんなときに創造性を失って病むのかという「^{えいち}歴史(注1)」を発展させてきました。

飲んだくれていて仕事をしない夫だとか、ずっと元気がなくうなだれています。あるいは何かの皮膚病がぜんぜん治らないなど、ある種のストレスや心の悩みを抱えている人に対して、悪魔祓いは行われます。

村中から人が集まって取り囲む中を、呪術師が患者(悪魔にとり憑かれた人)と対話したり、仮面をかぶった悪魔による、まるでコント劇場のような踊りあり、笑いありの悪魔祓いを一晩かけてやってもらうと、なぜかみんな元気になるのです。

私は「どんな人に悪魔が憑くのですか」と聞きました。すると、彼らは「孤独な人に悪魔が憑く」「孤独な人に悪魔のまなざしが来る」と言います。

つまり、スリランカの人たちは、仲間にどう見られているかが、私たちの精神と肉体の健康に直結しているということを、非常によく知っています。

では、「悪魔祓い」のどこが、私たちを癒やしてくれるのでしょうか。

悪魔祓いでは、その人が背負ってしまった心の痛手を、悪魔のせいにして祓ってしまします。周りの人のせいにもその人自身のせいにもしない。だから誰も傷つかないで、他の村人と交流を持った上で、自らの存在感を確かめることができ、患者の心が健康を取り戻すのでからだも健康を取り戻すのです。

その一方、私たち日本の社会では、心に闇を抱えた人は社会からどんどん切り離されていきます。

のことと関係があると思えるのは、日本人が子どもの頃から繰り返しつけられていく「人様に迷惑をかけてはいけない」という教育です。

たしかに、道端にゴミを捨ててはいけないとか、電車の中では席を詰めて座る、大きな声で騒がない、行列に横入りしないなどは日本人の美德です。

こういう細やかな道徳観念のおかげで街もきれいだし、犯罪率は低く、一見して住みごこちのいい社会になっているのもたしかです。

ところが、そのゴミのないきれいな街という条件の中で、心身の弱った人や悩みのある人はだんだん居場所がなくなってしまいます。「こんな自分はみんなの迷惑だ」「いなくなってしまったほうがいい」と、まるで病んだ自分で、ゴミのように感じてしまいます。

「悪魔祓い」の「孤独な人に悪魔のまなざしが来る」という言葉はなかなか深いところをついています。

私たちは誰でも何かの人間関係の中で助け合いながら生きているのですが、そこで「いつも頑張っているね」とか「応援しているわよ」というまなざしを感じることができれば、その人のところには悪魔が来ないです。

ところがそのまなざしが冷ややかで、「どうせできないくせに」とか「お前なんかいなくたっていいんだ」「君の成功なんか祈っていないよ、失敗のほうばかり祈っているんだ」という感じになってくると悪魔が来る、つまり心とからだの健康が脅かされるということなのです。

日本人の自殺率は世界の中でも非常に高いのですが、厚生労働省がまとめた2017年の人口動態統計では、15~19歳の死因として自殺が1位になったことが報告されました。

いじめや貧困、家庭内の不和など青春期にありがちな悩みを抱えていても、誰にも相談することができずひとりで追い込まれているのではないかということが懸念されます。

本当にみんな「空気を読む」ということをしながら、ちょっとでも変なことを言つたらいじめられると信じている若者がたくさんいると感じます。

人間としてどれだけ重要な岐路に立っていても、「迷惑をかけない」が優先されて、ホンネをさらけ出すことができない社会なら、結局のところ、それは道徳でも

美德でもなく、実は、「見た目の秩序を乱してはならない」というだけのことではないかという疑問が湧いてきます。

「悪魔祓い」のよいところは、その共同体の子どもたちが、小さいときから悪魔祓いを通じて、弱った人が再生していくようすを見ながら育っていくことです。そこで、もし自分がこの先とてもきびしい立場に立たされたとしても、きっと周りの人気が集まって悪魔祓いをしてくれる。そして再び立ち直れるのだ、ということを信じることができます。

その実感によって子どもは悲観せず、楽観的に生きていくことができるのです。

今の日本社会ではどうでしょうか。誰かが心を病んでしまっても、子どもたちはその人が回復するところを見て育っていないのです。

そのかわりに、社会から切り離されて孤立したみじめな姿だったり、あげくには、「誰でもいいから殺したかった」と言って、車で突入したり、駅で刃物を振り回したりしてしまう。子どもたちはそういう姿をニュース映像として目に焼き付けてしまいます。

そこから学んでいるのは、どんなメッセージなのでしょうか。

「一度失敗したら誰も助けてくれない」「人間は追い詰められると誰でもいいから殺したくなるものなんだ」という記憶を植え付けながら成長しているとしたら、どれだけの生きづらさを子どもたちに与え続けているのかということです。

愛というのは、大きな意味では世界の秩序を維持する機能を持っています。「人様に迷惑をかけないように」というのも、そもそもは互いに居心地よく暮らせるようにという愛であったと言えるでしょう。

しかし、弱った人を救わない共同体の秩序は、すでに硬直して单なるシステムになってしまっています。愛というのは本来、そのようにすでに死に体になってしまった秩序を上書きして、命の通ったものにしていく作用も持っています。

我々が、今の社会の持つ不寛容で非人間的なシステムに気づき、「こんな社会は嫌なんだ」とより人間的なものに上書きしていく力を發揮していかなければいいのですが、今はその力を信じている人が少ないというのも、生きにくい社会になっている原因かもしれません。

世の中が、愛を互いに引き出すような関係性に満ちていればいいのですが、そうでなければ私たちの愛する能力はうまく発揮することができません。また、他の人をひどく妬んだり、他の人の不幸を喜んだりという愛ではないものが引き出される関係性の中にあれば、私たちの中のその部分がどんどん引き出されてきてしまいます。

そういう悪循環を食い止め、正しい循環に変えていくのは、私たち自身に内在する愛を發していくことからしかないのです。

スリランカの悪魔祓いを執り行う呪術師は「どんな病もワクワクしないと治らないよ」と言います。伝統的な社会では、^(c)祭りや儀礼という形で癒やしが社会に組み込まれていました。

インドネシアのバリ島には、魔女ランダと聖獣バロンが戦うバロンダンスという民俗芸能があります。登場人物は途中でみんなランダに憑依されてしまい、自分で自分のからだに剣を突き立てたりするシーンがあります。

子どもたちも、そういうシーンを祭りのたびにみんなで見るのです。現代の日本なら「教育上よろしくない」という突き上げがありそうですが、バリ島はいわゆる精神病理的な狂気の発生率は非常に低い社会です。

沖縄は今でも、ユタと呼ばれるシャーマン(注2)(巫師)が、まだ活躍しています。「医者半分ユタ半分」といって、症状によっては西洋医学の病院に行き、またユタのところに行くこともあります。

「カミダーリ」というのは「神障り」と書くのですが、女性が人生の苦しみから憑依状態になるもので、次のシャーマンになるために必要なことと肯定されています。沖縄社会の中ではカミダーリはまったく悪いことではなく、サーダカといって感性が高いからそうなっているのだと言われます。

カミダーリになり、本当にサーダカな人は次のシャーマンになる。より目覚めた人になっていくのです。沖縄ではカミダーリのような狂気はポジティブなことになるし、そういう人がいないとむしろ地域の活性がないということになるわけです。

日本各地にもまだたくさんの祭りがあって、そこで狂ったように踊ったり、みこしをかついだりする風習もまだまだ生きています。でも全体的に見ると祭りの持つ

狂気を管理する方向が見え隠れするようになりました。そして少々の狂いも、それを厳しく排除していく社会になりつつあります。

学生運動に参加していた頃の荒ぶる世代の人たちは、「権力を打倒せよ」といつて、激しい運動を行っていました。でも、そういうふうに暴力的なエネルギーを投げつけることでは世界は変わらないのではないかと、プロテスト(注3)の気持ちはそのままに「非暴力トレーニング」というワークショップを行ってきた阿木幸男さんという方がいます。

ガンジーにせよマーチン・ルーサー・キングにせよ、彼らはみんな絶対的非暴力という思いのもとで自分たちを抑圧する相手を追い詰めていっているのです。

ところが、阿木さんは最近このワークを行っていて、このままではダメなんじゃないかと思ったという話をかなり前に聞きました。というのは、これまでには、社会の不正にがまんできないという思いが若者の中にあったから非暴力トレーニングをやる意味があるのですが、そもそも今の若者たちが憤りを感じていない。

そこで非暴力トレーニングをやったところで単なる「無気力トレーニング」になってしまうというのです。

そこで阿木さんは、まず「君たちは何に腹を立ててるんだ」と言って、憤りを引き出してから非暴力トレーニングにしなければいけないのだと言っていました。

今、私たちの社会の暴力性は、学生運動や革命のような社会的なものではなく、「誰でもよかった」と言って通りすがりの人を刺してしまうとか、リストカットをしたりとか、大変個人的で突発的、自傷を含めたものに変化しています。あるいはネット上でのいじめとかは陰湿さを増しています。

その暴力性を、「社会的な方向に表出してもいいんだ」というふうにいったん獲得してから、非暴力トレーニングに移らないと何も起きないと阿木さんは言っているのです。

「優しい子が多い」ということは、だいぶ以前から言われていました。

大平健さんの『やさしさの精神病理』(岩波新書)などでは、1990年代から優しさが変化していると言っています。

人に関わって優しくしてあげるのが私たちの世代の優しさだったのですが、最近

は人に関わらない優しさに変わってきたいるということです。

その人にあまり深く入っていかないで、そつとしておいてあげよう。きっと事情があるんだから、と聞きに行かない優しさです。

そうなると、コミュニケーションの量は当然減っていきます。つながりの感覚だけは確保していこうとするので、ゆるやかな「いいね！」ぐらいのつながりを確保しておくという感じになるのでしょうか。

この変化は、恋愛にも関わってきている気がします。

(d) まず最初に「つきあっている人いますか」というのが、最近の告白の定番です。「います」と言われると「ああそうですか」と引き下がってしまう。つきあってる人がいようがいまいが、好きなものは好きなんだからと思いますが、多くの人々は他の人に迷惑をかけてはいけない、と思ってしまうのです。

そもそも恋愛というのは、それ自体が「この人を私のものにしたい」というある意味暴力的な欲望をはらんだものでもあります。その湧き上がる衝動を自分の中にものすごく自覚しながらも、「こういう自分の欲望の根源はいったいどこにあるのか」「これはもしや、私のとてつもないエゴなのではないか」と気がついていく。

恋愛も、自分の中の暴力性を非暴力に変え、自分を見つめるきっかけとする非暴力トレーニングのような部分があります。あまりに物分かりのいい恋愛は逆に自分に対する気づきを生み出さないものになってしまふでしょう。

出典：上田紀行『愛する意味』(光文社新書、2019年)より抜粋。必要に応じて表現

などを変えてある。

(注1) 敘知：英知と同じ。

(注2) シャーマン：自らをトランス状態(忘我・恍惚)^{こうこつ}に導き、神・精霊・死者の靈などと直接に交渉し、その力を借りて予言・治病などをを行う宗教的職能者。

(注3) プロテスト：抗議。異議申立て。

問 1 下線部(a)とあるが、悪魔祓いの儀式が果たしている役割は何か。本文にそくして2つ、それぞれ80字以内で答えなさい。

問 2 下線部(b)の「愛」の機能と作用について、筆者はどのように考えているか。100字以内でまとめなさい。

問 3 下線部(c)に対して、現代ではそれがどのように変化していると筆者は考えているか。100字以内で答えなさい。

問 4 下線部(d)とあるが、恋愛においてどのような変化が生じているか。本文にそくして80字以内で答えなさい。

問 5 本文であげられている生きづらさの事例(1つでも複数でも可)について、および、それに対してどのように向かい合うべきかについて、あなたの考えを400字以内で論じなさい。

第2問

次の英文を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。(本文中の*の箇所は英文のあとに注があることを示している。)

著作権保護の観点から公開していません。

著作権保護の観点から公開していません。

著作権保護の観点から公開していません。

[Adapted from “Does listening to music while studying make you a better student?” by Sharuna Segaren, SI News, <https://www.studyinternational.com/>, January 1, 2019]

注 bellies おなか

lyrics 歌詞

問 1 下線部(a)の the Mozart Effect とはどのようなことか。下線部を満たす程度の日本語で述べなさい。

問 2 The Mozart Effect was rejected 10 years after it became popular. Recent research, however, confirms the benefits of listening to music, and several benefits are mentioned in the article. What are three of the benefits? Answer this question in English using words from the article.

問 3 下線部(b)にある environmental condition と type of music の具体例を本文から探し、下線部を満たす程度の日本語で述べなさい。

問 4 下線部(c)について、次の 2 つに日本語で答えなさい。

- 1) One final question とはどのようなことか。
- 2) この質問に対する筆者の考えを、本文中にあげられた研究例を用いて述べなさい。

問 5 Music, literature, and art are essential parts of human lives, as the article on music and study suggests. Think about the role that art, literature, or music plays in your own life. Choose one of them, and explain its importance or the ways it benefits you. Write your answer in your own words in English in the space provided on the answer sheet. Be sure to include specific details or examples to support your ideas.